

K GRIT の歴史とともに 金川ふさ子 98 年の歩み

浅草のちゃきちゃき娘が結婚。
しかしすぐに夫が戦地に・・・

桐ダンス職人であった金川鶴作が、東京・浅草に「金川タンス店」を創業し、家具の製造販売を開始したのは1921（大正10）年です。
のちに二代目社長になる金川正直（まさなお）の妻となった、ふさ子は、その2年後の1923年に同じ浅草で7人兄弟姉妹の長女として生まれました。

浅草という土地柄か子供のころから、お祭り好きで、和裁やお茶、お花などの習い事にも熱心だったそうです。
性格は、男兄弟が、おだやかであったのに対し、本人曰く「私は、子供の頃から、すぐくはっきりと物を言うタイプだった（笑）」そうで、下町生まれらしい非常に気づがよい性格でした。

正直のもとへ嫁いだのは戦時中の1943（昭和18）年。金川タンス店は戦争のため一時的に休業していました。
結婚式をあげると、すぐに正直は戦地へ赴き、ふさ子は夫の帰りを待ちながら、知り合いのツテを頼って空襲を避けるため吉祥寺へ疎開することになりました。
今は住みたいまちランキングで常に上位に入る吉祥寺も、当時は畑ばかりの田舎だったそうです。驚きですね。

厳しい戦争がようやく終了し当社が「有限会社 金川家具店」として再出発するのは、終戦から6年目の1951年です。
戦後の高度成長期の当社を支えた、ふさ子の人生は、ここから新たにスタートしました。



浅草三社祭の法被。背中には町名である「田原」の紋があしらわれている。



浅草家具祭りに参加した社員達



当社で初めて施工担当したホテル



家具のカナガワ 社員食堂・喫茶室

少し後の話になりますが、千葉県船橋市にオープンした家具屋本店には、喫茶店が併設されていて、ふさ子が切り盛りしていました。
社員が社長に叱責されて落ち込んだり、仕事がうまくいかなくて、くじけそうになっているのを見かけるたびに声をかけ、食事をさせながら悩みを聞いたそうです。

古株の従業員の一人は「私が悩んでいるのを見つけると、あの頃よく奥さんがクリームソーダを出してくれて、相談に乗ってくれたんですよ。
甘いものが貴重な時代だったから、凄くうれしかったし、なにより奥さん聞き上手でね、不思議と気持ちが晴れてきて、明日から、もう一度頑張ろうかって気持ちになったんですよ。」と当時の思い出を懐かしそうに語ってくれました。

また経営面でも、ふさ子の役割は大きなものでした。
そろばんが得意だったため経理を任されていたのですが、役割はそれだけで終わりません。高度経済成長期を迎えるなか、事業は、東京から当時ベットタウンとして人口が増加した千葉へと拠点を移して発展。
夫婦で慣れない千葉に移り住み、事業を拡大していきました。

しかし江戸っ子で、気前のいい夫は、人にお金を貸してしまったり、儲け話に乗って騙されることもありました。
そんなとき、ふさ子は「次は、きちんと契約を交わしてからにしてください!」と、夫をいさめつつ、陰で金銭を工面したそうです。

常に従業員の様子に気を配り、ときに経営の手綱を引く。
いつしか、ふさ子は当社の発展に欠かせない存在となっていました。



夫の事業を支え、従業員の拠り所に

当時の従業員は住み込みで、総勢10数人が店舗2階で寝泊まりしていました。
住み込み店員はみんな中卒で田舎から出てきた若者ばかり。そうとう騒がしい下宿だったでしょうね。
ふさ子は家族だけでなく、従業員、皆の母親代わりでした。

風呂は小さなものが一つしかなく、家族も従業員も使います。当時はシャワーなんてありませんし、湯舟のお湯を沸かして、そのお湯を汲んで体を洗います。
最初に入る人はいいですが、後に入る人はお湯も少なくなるし、汚くなっていきます。
ふさ子は「私はあとでいいから」と従業員を気遣い、いつも最後に入っていたそうです。

社長の正直は昔気質の人なので、部下を怒鳴りつける事も日常茶飯事。怒られてしよげている従業員にフォローするのも、ふさ子の役目でした。

思いがけない夫の急逝で会長に就任

しかし 1985（昭和 60）年 7 月、ふさ子の夫であり二代目社長である金川正直が 63 才の若さで急逝してしまいます。

2 人は、ほんの数か月前にハワイ旅行を楽しんだばかり。亡くなる数時間前に家族で楽しく晩御飯を食べた後、心不全で突然倒れてしまい、そのまま帰らぬ人となってしまったのです。

創業以来、最大のピンチが訪れたと言っても過言ではなく、あまりに突然の出来事に、会社は大騒ぎになりました。

しかし、家業は長女・玲子の夫である井藤憲次が引継ぎ、ふさ子は会長職に就き、社員が協力し、一致団結して何とかして危機を乗り越えました。

その後、世の中はバブル景気を迎え、事業は多角的に発展。ふさ子は、重要な会議などには出席していましたが、年齢も 60 代半ばを過ぎ、徐々に若い世代が経営を引き継いでくれる様になりました。



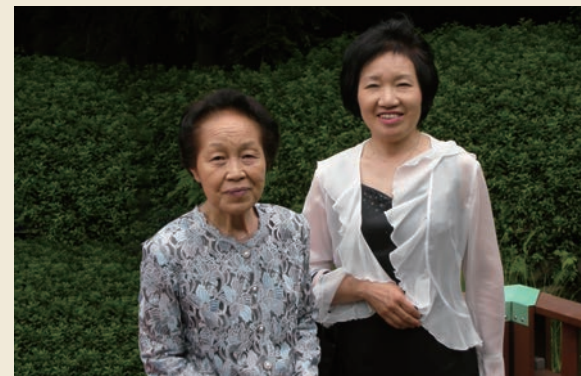
1985 年ハワイ旅行時



金川ふさ子が暮らしていた浅草の自宅兼事務所ビル



2003 年頃の三社祭の様子



社員の結婚式に参列（2007 年）



社名変更・社長会長就任パーティー（2017 年）

仕事からも距離を置くことになって、ふさ子の心のなかで膨らんでいくものがありました。

それは、故郷・浅草への思いです。

千葉に移り住んで 20 年余り、余生は浅草に戻って生活したいと思うようになります。

そこで、浅草に自宅兼事務所ビルを建設し、次女・正枝（まさえ）と暮らし始めたのです。

その後、現社長・元希の妹、佐藤光子の家族も、ふさ子を慕って一緒に暮らすようになりました。

晩年のふさ子は、娘だけでなく孫、ひ孫に囲まれ、身近な人からは「あーちゃん」という愛称で呼ばれながら、浅草での生活を楽しみました。

生まれ育った浅草の地で賑やかに晩年を過ごしたふさ子は、2021 年夏、98 年の生涯に幕を閉じました。

それは、くしくも当社が創業 100 周年を迎えた年であり、ふさ子の歩みは、まさに当社の歴史と軌を一にしたものとなりました。

金川ふさ子が残した多くの功績や思い出は、当社に不可欠な無形の財産として、これからも受け継がれていくと思います。